

ナバリノ 魅力 Labo ②

幕末のリアルがここにある。

名張には、幕末から明治にかけて活躍した熊本出身の生人形師、安本 亀八(初代/1826~1900年)の作品が数多く残されている。

亀八の肖像彫刻について「少し控えめな表情で品があり、人間らしさが表現されている」と評するのは、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の仏教美術考証も行った群馬県立女子大学の塩澤寛樹教授。今年3月、名張藤堂家邸跡で講演いただいた。

☎ 文化生涯学習室 ☎ 63-7892



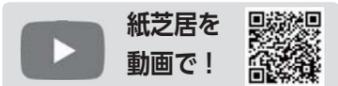
名張に残る
安本亀八の
肖像彫刻

ご先祖さんたちが集まった

医師の「横山文圭像」、荒物商の「岡村甚六像」、酒造業の「角田半兵衛・みか夫婦像」……。3月25日、「はなびし庵」(中町)で、安本亀八作の肖像彫刻が顔をそろえた。いずれも幕末の名張に実在した人物がモデルとなっている。「ご先祖さんたちが、まるで、井戸端会議に向いてきてくれたよう。肖像のモデルの子孫は、私たちとも親しいご近所さん。長年の構想がようやく実現した。」



角田夫妻(上写真)の掛け合いが人気の歴史絵劇場。「劇団ふたり」と名付けた二人のデビュー作は、「角田半兵衛夫婦坐像縁起」。夫婦像の制作を亀八に依頼する場面を影絵で描く。



紙芝居を
動画で!



でいる。
名張に残される多彩な作品
安本亀八の作品展
示を監修したのは、群馬県立女子大学の塩澤寛樹教授。同日、名張藤堂家邸跡で講演いただき、「亀八は、肖像や仏像、能面、絵画など、幅広い分野を手掛けた才能の持ち主。名張はそんな亀八の多彩な作品が数多く残り、肖像のモデルの子孫も住んでいるという他にない貴重なまち」と強調した。

とされる。しかし、作品の多くは関東大震災や戦災で失われてしまった。塩澤教授によると、亀八が名張を訪れたのは、幕末の1860年ごろ。地元の商家などに身を寄せながら、2年ほど滞在し、肖像彫刻や絵画など、数々の作品を手掛けたという。



亀八作とされる旧家の蔵の壁に描かれていた「松に龍」(上)、唐獅子の置物あるいは根付(左)、宇流富志禰神社所蔵の能面「橋姫」(右上)、和州騒動の図(下)。塩澤教授は、名張の郷土史研究家の冊子も参考に、亀八の多彩な作品の魅力を見出している。



3月25日の講演では、名張で確認された8体目の肖像彫刻に安本亀八の名が記されていたことが明かされた



多彩な作品を残した
亀八の魅力に迫りたい